



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
東京事務所
〒110-8605 東京都台東区東上野1-20-6 (丸幸ビル6F)
Tel. 03-3834-2388 Fax. 03-3835-0519
HEADQUARTERS
6F Maruko Bldg. 1-20-6 Higashiueno Taito-ku Tokyo 110-8605 Japan

2005年10月19日

パキスタン地震被災地 調査・支援レポート

～地元NGOと連携し、緊急に必要なシート・毛布を配布～

10月8日にパキスタンで発生した大地震に対し、日本国際ボランティアセンター(JVC)は、甚大な被害を受けたパキスタン国内とインド・カシミール地方において緊急支援を開始しました。現在スタッフ2名がパキスタンとインドにて現地NGOとの連携のもと支援活動を行なっています。

パキスタン支援 概要(10月17日現在)

JVC事務局長 清水俊弘が14日から現地入りし、地元NGO「SPADO」と連携のもと、被害の大きい北西辺境州マンセラ県バラコットにてシートや毛布の配布を行なっています。家屋の倒壊と寒い季節の到来時期が重なったことで、雨風をしのぐテントのニーズが圧倒的に高まっています。

【支援内容】

簡易テントとなる防水シート・敷物・毛布のセット、約300家族分(約2000人分)の配布を開始
<1家族分のセット>

テント用防水シート	約15ドル
敷物(プラスチックシート)とロープ	約3.5ドル
大きめの毛布	約20ドル

1家族あたり約38.5ドル(約4500円) × 300家族分

JVCでは第一弾として上記の支援を開始しました。

この活動のための緊急募金を呼びかけています。皆様のご協力をお願いいたします。

郵便口座 00190-9-27495 「JVC 東京事務所」

通信欄に「パキスタン地震」とお書き添えください。

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)

〒110-8605 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル6F

TEL 03-3834-2388 FAX 03-3835-0519

<次ページ詳細>

代表理事 熊岡 路矢
広報担当 広瀬 哲子

パキスタン支援 詳細(10月17日現在)

JVC事務局長 清水 俊弘(パキスタン派遣中)

風雨の中での避難生活。



多くの家屋が崩壊し、人々は屋外で避難生活を送る。
(アザド・カシミール州 ムザファラード)

標高の高いパキスタン北部は、日中、日差しのあるときはまだ暖かいが、朝晩の冷え込みは厳しくなっている。山間部の深夜の気温は5度を割っていると思われる。さらに頻繁に冷たい雨が降り、強い風が吹く。雨風をしのぐためのテントが圧倒的に不足しており、家屋を失った人々は風雨の中、壊れかけた瓦礫の中や、まったくの野ざらしの状態で身を寄せ合っている。

寒さの中、野ざらしで夜をしのぐ。

街のほとんどが壊滅状態となったバラコットで、野宿をしていたアブドゥル・ラティフさん(35歳男性)は、今回の地震でつれあいを失い、二人の子供と両親、そして妹をつれて山間部から街に降りてきた。山間部ではいくら待てども救援物資が届かず、このままでは皆死んでしまうと思い、下の街まで降りてきた。しかし、街にも何も残っておらず、殺到する人々の間で配給物資を取り合う力も出ないという。

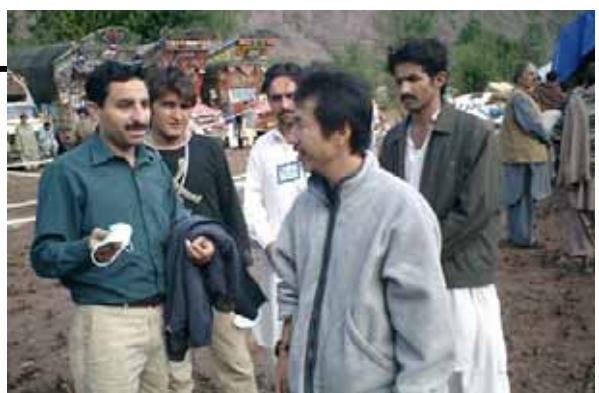
一昨日、小麦を少しもらったが、今朝の雨で濡れてしまった。とにかく、雨をしのぐものがほしいし、食べる物も欲しい。朝から何も食べていないと、薪の上にかけてある鍋を棒切れでかき回す。中には川から汲んだ水が入っていた。



家族と共に町に逃れてきたが、テントも食料も足りない。
(北西辺境州マンセラ県バラコット)

生き延びるためにテント。

JVCは地雷廃絶キャンペーンで築いたネットワークを活かし、現地NGO「SPADO」と連携して、テント用シートや毛布の配布を行なっている。上述のアブドゥルさんのように救援物資の争奪戦に加わる力のない人々が支援を受けられるよう、地元ペシャワール大学の学生ボランティアたちの力を借りながら、夜間に配布するなど配布方法に留意して実施している。



地元NGO「SPADO」のスタッフとJVC事務局長・清水俊弘
(北西辺境州マンセラ県バラコット)